

PTA

# やまがた

第41号

平成29年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 荒井 寛

山形市十日町1丁目6番6号

県保健福祉センター内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『**広げよう活動の環を つなげよう地域ぐるみの教育を**』

～次代をつなぐ子どもたちが 夢と希望を抱ける ふるさとの創造を目指して～

# 広げよう活動の環を

## つなげよう地域ぐるみの教育を

「次代をつなぐ子どもたちが夢と希望を抱ける

ふるさとの創造を目指して」

山形県PTA連合会会長 荒井 寛



## 年

年度末を迎え、改めて時の流れの速さに驚いているこの頃

ですが、皆様方におかれましてはそれぞれの郡・市PTA連合会、単位PTAそして地域社会において、子どもたちを健全に育む環境づくりに鋭意取り組んでおられますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、今年度も山形県PTA連合会は、「広げよう活動の環を つなげよう地域ぐるみの教育を」次代をつなぐ子どもたちが 夢と希望を抱けるふるさとの創造を目指して」というスローガンのもと、様々な活動を展開して参りました。家庭・学

校・地域を結ぶ架け橋としてのPTAの役割りと責務の重要性を自覚し、子どもたちの健全育成とともに地域社会の生活や文化の発展向上にも繋げていきたいという思いで取り組んできました。皆様方から深いご理解とご支援を賜りましたことに重ねて御礼申し上げます。

私たちが最も大切に行っている研修活動の集大成として「第六十八回山形県PTA研修大会鶴岡・東田川大会」が開催されました。県内各地から九〇〇名を超す会員の参加をえて、「はぐくもう 学び続ける子ども・地域とつながる子ども」「いのちをつなぐ子ども」家庭・学校・地域の確かな連携を通しての大会主題のもと研修を深めました。午前中の五つの分科会では、それぞれの課題に添った熱心な話し合いがもたれ、参加者はパネリストやコーディネーターと共感し、これからのPTA活動への思いを確かめ合うことができ

ました。午後からの全体会では、イタリヤ料理店「アルケツチアーノ」オーナーシェフ奥田政行氏より「食から始まる地域づくり」と題しての記念講演をいただきました。人材育成では、「向上心をもつて、趣味を自分の職業にするとよい」、また、「食は、大地と人、人と人を結びつける役割である」「誰をも犠牲にせず、お互いに育み合いながら、関わった人すべてを幸せにする」などの言葉は、今後のPTA活動のあり方にも大きな示唆を与えてくれるものでした。鶴岡市PTA連合会・東田川郡PTA連合会の皆様方の緻密な計画と連携で円滑な大会運営をしていただき、実行委員会の皆様方のおもてなしの心が伝わる温かい大会となりました。関係する全ての皆様方に感謝申し上げます。

また、山形県教育委員会、山形県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会は、「主権者教育の推進に向けたPTAの役割」をテーマに開催されました。選挙権が十八歳に引き下げられ初めての選挙が実施され、実際に有権者を有する高等学校の取り組みや、小中学校においては社会に出る前の準備段階での取組みを県教育委員会から話題提供していただき、グループごとの討議で理解を深めま

した。私たち保護者の役割は、家庭の中で子どもたちの素地となる公民的な資質を育むことが重要であることを認識いたしました。

常置委員会においては、母親委員会が子育ての悩みを共有しながらその解決に向け取組み、安全互助会委員会では、ヘルメット着用の呼びかけや子どもたちの不慮の事故に備えて対応しました。特別委員会においては、ネットモラル推進委員会が「山形方式ネットモラル講習会カリキュラム」に基づく学習会や「いのちの大切さ」の学習会の開催に助成し親学を推進しました。さらに、親子読書委員会では「親子で読書 深める絆」本を読む子は必ず伸びるをテーマに、親子のコミュニケーションの活性化をめざし家庭での読書を推進した活動や、「親子読書だより」の発行など、様々な活動が展開されました。それぞれの委員会活動も今日の教育課題に直結した重要な取組となりました。今後も本会の活動方針スローガンに沿った積極的な取組を推進していきたいと思

います。最後に、温かいご支援とご協力を頂いております山形県教育委員会様はじめ、関係各位の皆様にご心から感謝を申し上げます。

## キーワードは「つなぐ」

**昨** 年度の成果に立ち、今年度県PTA研修大会鶴岡・東田川大会が鶴岡市PTA連合会・東田川郡PTA連合会主管のもと多くの成果を見出し終了することができました。

今年度、県連合小学校長会より県PTA担当理事としてご指名いただいた縁で県内各地区代表のPTA会長さんや県P連事務局の皆様とお近づきになれ、情報交換ができましたことはとてもいい経験でありました。

さらに、地元鶴岡市で開催された県PTA研修大会に立ち会うことができましたのも「縁」を感じずにはいられません。

私にとって、こうした一連の営みから見えてくるキーワードは「つなぐ」でありました。社会を支えていくのは人であり、人づくりの根幹は教育です。この教育は学校だけでなく家庭や地域など社会全体で担わなければなりません。学校と家庭、地



鶴岡市立朝陽第一小学校 校長

本 田 淳

域の連携を実りあるものにするにはそれぞれがその役割を自覚することが肝要と考えます。

本校としての自覚はと問われれば地域の中の学校として地域とつながり、教育活動を共に創り出すということであります。

具体的な取組みを紹介いたします。

児童会で進めるあいさつ運動がPTAを巻き込み、学区民生委員へも広がり、今は、町内会長全員が立ち上がり、学校・家庭・地域の連携が図られているという実践です。あいさつで地域を明るく元気にしようという呼びかけをPTAが中心となり学校を超えた連携で地域全体が協力し合う風土を創りあげようと展開されています。このことが必要とされる背景として核家族化の進行、地域でのつながりの希薄化がありました。

こうして立ち上げた時のPTAが発信したキャッチコピーが次でした。

誰でも参加OKです。朝笑顔で登校するわが子、一小児童から元気をもらいませんか！

## 山形県PTA研修大会鶴岡・東田川大会を終えて



実行委員長

五十嵐 崇

**過** 日は爽やかな秋晴れの空のもと、県内各地から多くのご来賓と九百四十名もの会員の皆様をお迎えし、第六十八回山形県PTA研修大会鶴岡・東田川大会を盛大に開催できましたことに心より感謝申し上げます。

また、大会の開催にあたりご協力いただいた県PTA連合会の役員や事務局の皆様、そして準備や当日の運営などそれぞれの担当でご尽力いただいた実行委員や協力員の皆様にも心より感謝いたします。

さて、今回の研修大会の主題は、第6次山形県教育振興計画の理解を深めたいとの思いを込め、「はぐくもう 学び続ける子ども・地域とつながる子ども」「いのちをつなぐ子ども」「家庭・学校・地域の確かな連携を通して」といたしました。

分科会では、PTA活動の活性化、メディアとの関わり方をも含む子どもたちの健全育成、子どもたちの安全・安心などをテーマに、具体的な取組事例の

発表と質疑応答を行いました。この分科会により参加者間で貴重な情報が共有され、多くの学び・気づきを得ることにつながったものと思います。

そして特製「食の都庄内・PTAお弁当」で当地の食文化を体験いただいた後の全体行事と記念講演。壇上で参加者の皆様の前に立った時、あらためてこの大会の凄さを実感しました。

講演では、「イタリア料理店「アル・ケッチアーノ」のオーナーシェフ奥田政行様より「食からはじまる地域づくり」と題して、在来作物の普及や地域食材の知名度向上に取り組んだ時の仲間づくりやお店での人づくりなどを紹介いただき、「誰をも犠牲にせず、お互いに育み合いながら、関わった人すべてを幸せにしたい」と結んで、温かな人間関係を築く際の大きなヒントを私たちに示してくださいました。

今回の大会で多くの仲間と交流し、また、アンケートでもとても高い評価をいただいたことは、開催地にとって最高の激励となりました。今後もPTAの仲間と「P」ばつと「T」楽しく「A」集まって、研修成果の共有を進め、温かく力強い教育の輪を県内隅々に広げていきたいと思います。

# 山形県PTA母親委員会の活動報告



山形県PTA母親委員長  
堀田 理恵



山形県PTA母親委員会の活動を皆様に支えていただき展開できました。心より感謝申し上げます。また、各郡・市PTAの母親委員会におかれましては活動に活動していただきありがとうございます。

母親委員会では、「命の尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や現状、母として何を学び子どもに何を伝えるべきか等々、情報を交換し活動につなげてきました。今年は、岩手県PTAの母親委員会との交流を視野に入れながら、まず母親委員長を招き、組織状況や活動状況の話をお聞きしました。さらに、八月には、岩手県PTA連合会を訪問し母親委員会の会議の様子を見せていただくとともに、母親委員会組織

のことや子どもの様子、家庭教育について意見交換、情報交換をし、楽しく交流してきました。母親委員研修では、山形学園園長の片桐弥生氏より、児童養護施設で生活を共にする子どもたちの様子を聞き、子育てで大切にしたい原点は何かを改めて考えさせられました。そして、全ての子どもたちに、毎日、微笑みがあることを願わずにはいられません。今年度も、学びの多い一年になりましたが、子どもの手本となる私たち大人は、まだまだ学び続ける必要があります。情報社会の発達、人間関係の希薄化、等々、子育て環境は時代とともに変化していきますが、子どもたちのより良い未来のために今後も母親同士のネットワークを大切にし、家庭教育力の向上に努めていきたいと思っています。

## 各地区の活動報告

### 《山形市》

- ・定例母親委員会 三回（活動方針・情報交換・研修等）
- ・「親学」家庭教育研修（高畠小学校視察研修）
- ・拡大母親委員会 一回
- 講演「子育てで大切にしたいこと」  
（児童養護施設の現場から）  
講師 片桐弥生氏
- ・「マザーズネットワーク」No.21 発行

### 《上山市》

- ・母親委員会 二回
- ・研修会 一回
- 講演「いじめの理解と対応予防」  
講師 宮崎 昭氏

### 《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会
- ・母の集い（講師を招いて講演会）
- ※地区小中学校より二名以上の参加を要請して行った。
- 講演「いのちを育む読む力」  
（本を読む子は必ず伸びる）  
講師 五十嵐絹子氏

### 《西村山》

- ・「母親委員会だより」発行
- ・（学校図書館アドバイザー）
- ・定例母親委員会 二回
- ・研修「親子でやろうホームプログラム」  
講師 芹川武志氏

### 《北村山》

- ・代表委員会 三回
- ・母親委員会だより発行
- ・北村山地区PTAとしての活動はないが、各単位PTAで活動を行っている。

### 《最上地区》

- ・定例母親委員会 二回
- ・地区母親委員会研修会 二回
- ・講演「共同性と協調性の中で育つ子どもと大人の地域社会」  
講師 杉原真晃氏

### 《聖心女子大学文学部教育学科准教授》

- ・小中一貫校萩野学園視察
- ・代表母親委員会研修及び情報交換会
- ・「母親委員会だより」二月発行

### 《米沢市》

- ・定例母親委員会 四回
- ・研修会「カルトナージュ」  
講師 落合雅美氏
- ・講演会  
「思春期の子どものどうかかわるか」  
講師 沼山 博氏

- ・（山形県立米沢栄養大学教授）

### 《東置賜地区》

- ・地区PTA代表母親委員一名が県PTA母親委員会に出席しています。

### 《西置賜地区》

- ・定例母親委員会 二回
- ・母親委員会だより発行
- ・地区PTA交流会への参加協力

### 《鶴岡市》

- ・母親委員会 二回
- ・（活動方針、情報交換、研修会、等）
- ・研修会
- ・「発達障がいを理解しよう」  
（ちよつと気になる子の関わりあい）  
講師 佐藤広明氏

### 《「発達障がいの子を持つパパの体験談」

- ・（合同会社ハウスカ代表社員）
- ・講師 五十嵐 崇氏

### 《グループ会議》

- ・（鶴岡市PTA連合会会長）

### 《東田川郡》

- ・定例母親委員会二回
- ・\*活動報告 \*情報交換等

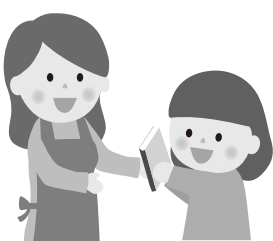
### 《酒田飽海》

- ・母親委員長等会議 二回
- ・（活動方針・情報交換・講演会）
- ・講演「現代子供の本事情」  
（親子読書をどうするか）  
講師 加藤美穂子氏

### 《グループ研修》

- ・（子どもの読書サポートアシッド代表理事）
- ・①講演会の評価・反省
- ・②各学校の情報交換

- ・酒田飽海PTA研修大会への協力



# 「主権者教育の推進に向けたPTAの役割」

～主体的に考え判断できる自立した社会人の育成を目指して～

昨年、公職選挙法が改正され、選挙権が満20歳から満18歳に引き下げられたことにより高校生が選挙権を持つことになり、校外での政治活動も認められることになった。そのため、学校には政治的教養を育む教育の推進が一層求められるとともに家庭や保護者の果たす役割の大きさも指摘されている。学校教育は国家・社会の形成者として必要な資質を養うことを目標の一つとしているが、主権者教育の推進はそれに沿ったものである。また、PTA活動の目指す子どもたちの健全育成ともリンクするものであり、今後のPTA活動の課題の一つになってきている。主権者教育は、子どもの全成長過程を通して学校や家庭において適切になされていくことが大切であり、高校生になるまでにその資質や態度を育んでいくことが重要である。次代を担う自立した社会人を育成するために、学校・家庭・地域が緊密に連携して何ができるかを考えたい。

〈話題提供〉高校教育課課長 津田 浩氏

## 【現状】

- 一つのクラスに有権者と無権者が混在している。選挙違反に繋がらないかと不安である。
- 教師は個人的な主義主張を押し付けることは決してあってはならない。しかし、中立的に指導するのも極めて難しい。
- 選挙公約を使って、演説会・模擬投票を行ったり、新聞記事を利用しながら話し合ったり、主権者教育を行った結果、参議員選挙では、8割の投票率だった。

## 【課題】

- 教師の中立性の確保や選挙違反にならない取組
- 高校生が、授業や部活動で忙しい生活の中、どれだけ社会や政治に目を向けて、自ら考え自ら判断して投票行動に結び付けていくか「探究型学習」の推進

〈話題提供〉義務教育課課長補佐 佐藤昌彦氏

## 【現状】

小学校では県議会、中学校では国会議事堂を見学するが、我々国民が主権者として支えているから政治全体が成り立ち、それが日常生活に跳ね返ってくるといふ大きな流れを、子どもの発達段階に応じ教育している。

## 【課題】

学校は、社会の変化に対応して使命や役割を変えなければならない。社会の変化に対応できる資質や能力を子どもたちに身に着けさせ、知識・知能を獲得させる。さらに、それを主体的・協動的また柔軟に考え、新たなものを生み出す力を育むことが求められている。そのため、今まで以上に社会との密接な関係をもって共に考えていく“提案性”のある学習を取り入れていかなければならない。

## 視点1：⇒子どもたちが、政治や社会世の中の出来事などに興味や関心を持つことができる有効な手段や方法を考える

- 世の中で大切にされていることを体験させる
- 親が政治に関心を持つことが大事
- 地元の議員さんに関する話を出し、政治に関心を持ってもらう
- 親子で新聞を読みながら、候補者について討議をし、自ら候補者を選び投票に行く、という体制づくりを心掛ける
- 教師は、政治的中立性を確保しなければならないため自分の意見を言えない。学校での統一した授業は無理なのではないか

## 視点2：⇒自ら考え判断できる自立した社会人を育む家庭のあり方を考える

- 町づくり等のボランティア活動を通して成長してほしい
- 新聞を読む習慣をつける
- 子どもの意見を待ち、親が決めつけない
- 保護者が手を出しすぎているため、社会で生き抜く力が養われない。大人が変わらなければならない
- 子どもの力を信じる

## まとめ

選挙権の引き下げを契機に、主体的な選択や判断を行い、他者と共同しながら様々な課題を解決していくということを、探究型学習を通して学んでほしい。地域と学校、家庭が連携協力し、社会総がかりで教育を行うことが求められているが、主権者教育においても、学校・家庭・地域がそれぞれの役割に取り組み、社会を支える有権者としての自覚を持った主権者を育成しなければならない。それぞれの立場で主権者教育をお願いしたい。

## 〈感想〉

我が子を、18歳までに大人として社会に送り出さなくてはいけない時代になっています。自ら考え判断できる力を育てるために、口出しせずに、子どもの声に大人の立場で耳を傾け待つということが大事だと感じました。とても有意義な懇談会でした。

文責 県PTA連合会理事 副母親委員長 高橋 智文

## 山形県PTA連合会「親子読書推進委員会」

# 親子で読書 深める絆

～本を読む子は かならず伸びる～

山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

### 親子読書・地域の活動

大人も子どもも本を楽しもう！

山形市立桜田小学校

でんでん虫の会 櫻井 浩美

「でんでん虫の会」として、二十年ほど前から保護者や卒業生の親が読み聞かせの活動を行っています。現在のメンバーは二十六名で、各学年、月に二回程度、毎週火曜日の朝

十五分間読み聞かせを行っています。名目上、読み聞かせの活動とはなっていますが、私たちの気持ちとしては、本を楽しむ会がふさわしいと考えています。

読み手側である大人が楽しまない、子どもたちにも本の面白さ、楽しさが伝わらないので、読む本は各メンバーにお任せし、その時期にふさわしい本、お気に入りの本、人気のある本などを持ち寄り、読み手の個性に合わせて、子どもたちと本を楽しんでいます。

子どもたちにも気持ちは伝わったようで、「本が好きになった」「本って楽しい」などというお手紙を頂きます。私たちにとっては何よりの褒め言葉です。

読む力を育むためには、まずは読むことを楽しんでほしい。そのためにこれからも「でんでん虫の会」は楽しみながら活動していきます。



### 地域の協力とともに

#### 親子読書への取り組み

長井市立西根小学校PTA  
目を輝かせて本の世界に入り込ん

でいる子どもたち。母親委員会が中心となり、朝読書の時間に読み聞かせを行っています。

すべての学級で、読み聞かせのためにお父さんやお母さんが選んできた本を紹介し、読み聞かせを進めます。秋には、学校の読書週間に合わせて、親子読書の取り組みを行います。それぞれの家庭でもこんな優しくゆったりとした時間が流れると素晴らしいと思っています。

また、地域の図書ボランティアの方々からは、月に二回学校に来ていただき、休み時間の読み聞かせや昔話の語り、そして親子読書に向けて本を選びやすくなるような図書室の整備にもご協力をいただいております。もっともつと本が大好きな子どもたちになつてほしいと願っています。



### 「親子読書」から

#### 「読書が好き」を目指して

三川町立東郷小学校  
PTA会長 成澤 和久  
本校では、朝読書の時間、一・二

年生の保護者全員が交代で学校に向いて、一・二年生を対象に読み聞かせを行う「親子読書」を行っています。そして、一年生時から二年生のどちらかで親子読書委員として、年二回ある「お楽しみ会」の企画・運営にも参加します。子どもたちが読書を好きになるようPTAとして頑張っています。

★親子のコミュニケーションの一つ  
「何の本を読もうか」親子で一緒に本を探します。本が決まったら、早速おうちで練習！この時からすでに親子読書が始まっています。読み聞かせ当日は、子どもたちは真剣に聞いて反応してくれます。

★楽しみながら本にふれあう「お楽しみ会」

本の読み聞かせの他にも、お楽しみ会では、委員が大型絵本や紙芝居、人形劇等工夫をこらし、楽しい読書の時間を過ごします。

#### ★児童会主催の「読書まつり」

委員会活動でも、児童が昼休みに読み聞かせを行った、全校児童が「本紹介がき」で友達に本を紹介したりする「読書まつり」を秋に開



催しています。「親子読書」を通して、子どもたちも家族も「読書が好き」になってくれるのを願っています。

## 町との連携で取り組む

### 「読み聞かせ」活動

河北町立河北中学校

教頭 片桐 清

### 中学生だからこそ読み聞かせ

本校では、町教委生涯教育課の支援をいただき、毎週金曜日に一学年五学級で「朝の読み聞かせ」活動を行っています。今年で五年目の活動であり、読み聞かせの研修を積んだボランティアの方々四名が、朝の忙しい時間を割いて、年間十六日間、一学級あたり十回程度実施して下さっています。

「中学生に絵本ですか？」という質問にはあえて「中学生だからこそ読み聞かせです。」と答えたと思います。中学生にとっての読み聞かせは、多感なこの時期、日々の学習や部活動に追われる生徒たちに、自分自身を見つめ



たり、価値あるものに触れたりする時間であり、心を癒し、育む場面であり、様々な感性を共有できる空間になっていると感じます。それだけに、読み手の方々は本の選択から真剣勝負です。毎回記入している記録からは生徒たちに対する熱い思いと読み聞かせに対する真摯な姿勢が伝わってきます。もちろん、生徒たちの読書励行に繋がっていることは言うまでもありません。

**読み聞かせの記録**（ボランティアの方が記入）

◇はじめはしみりとした内容、それも昔の話で生徒にとってどうだったのか？せつないような、悲しいようなことが、生徒の感想に触れられていて安心。二冊目は、好きなものに目を向け、もっと増やしていこうというメッセージを込めて読みました。

①『おばあさんのしんぶん』…松本春野文・絵 岩國哲人原作

②『すきがいつぱい』…マーガレット・ウィズ・ブラウン作 ガーズ・ウィリアムズ 絵

### 生徒の感想（お礼の文章から）

◇私は最後の日に読んでいただいた『君のゆく道』がとても良いと思いました。この絵本は、これから成長していく私たちへのエールにもなり

ました。これから起こる良いことや悪いことを人生として受け入れ毎日を過ごしていきたいです。

## 親子読書の取り組みから

新庄市立新庄小学校

昨年度より、新庄小学校では山形県PTA親子読書推進事業の提案を受け、毎月第三日曜日を親子読書の日とし、親子読書に取り組んでいます。本校では、親子読書を通して、

親子のコミュニケーションを活性化させるとともに、メディアから離れた家庭での時間の過ごし方について親子で考えることが親子読書の取り組みの目的の一つと考えています。

本校での取り組み方法は、毎月第三日曜日に①親子で読む本と読む方法を決める。②静かな環境を作る。

③親子読書をする。④読んだ本と方法、一言感想をカードに書く。といういたってシンプルなものなのです。

これを一年間カードに書きためていき、三月には、そのカードをもとに親子でこれまで読んできた本について振り返り、一番印象深かった一冊を「〇〇家のベスト本」としています。

昨年度は、各家庭から選出された四〇〇冊以上のベスト本を、親子読書だよりや学校図書館の親子読書コーナーで紹介しました。取り組み当初

の親子読書カードを見てみると、低学年では親から子へ読み聞かせ、高学年になると同じ時間にそれぞれに読みたい本を読むことが多かったようです。しかし、回数を重ねていくごとに、学年を問わず、子から親へ読み聞かせ、二ページずつ交代して読む、おすすめの本を紹介し合ったり読むなど、親子読書の仕方についても各家庭で話題にされ、工夫されてきています。

「テレビをつけないで読むと静かで緊張しました。でも、うれしかったです。」（二年女）「読み終わってから、お父さんが歴史についてさらに詳しく教えてくれました。」（五年男）「二人でゆつくり読んでいた時間が楽しかった。カタカナもがんばって読んでくれて感動!!」（一年保護者）「息子の読み聞かせを初めて聞きました。また読んでほしいです。」（六年保護者）感想欄には、本の内容についての感想のほか、このように親子読書として過ごした時間への感想も見受けられます。本校では、本を通して親子での会話や家庭での時間の過ごし方を考える機会となることを願って、今後も親子読書を継続していきたいと思っています。

# 「つながり力」で課題を解決！ 学校と地域の明日をつくるPTA活動

東根市立第一中学校PTA会長 児玉良治

## 一、はじめに

東根市立第一中学校は、創立六十七年を迎える、市内では大規模校のひとつである。

平成二十八年度の生徒数は五二九名、保護者世帯数は四七三世帯である。

PTA組織は、学年部と専門部から構成され、専門部には、総務部・文教部・健康部・生活部・環境部があり、必要に応じて横断的な委員会を組織し課題解決にあたっている。

## 二、特色ある取組みについて

① 自家用車での送迎による学校周辺の交通渋滞解消に向けた取組み  
南北に広い学区のため、本校の多くの生徒は夏期に自転車通学をしている。一方冬期は公共交通機関の便が悪いことや防犯上の理由から、相当数の保護者が自家用車で生徒の送迎をしている。その結果、学校周辺で交通渋滞が起り、安全面や通行ができない、など地域との関係の面でも課題があった。

そこで、平成二十六年よりPTAとして生徒の安全を守るため、「送迎対策委員会」を組織し、次のような取組みを行ってきた。

〈平成二十六年度〉

- ・準備会議を経てPTA総会で送迎対策委員会設立の承認
- ・送迎に関するアンケート調査の実施及び集約と分析
- ・送迎対策に関するワークショップの実施とそのまとめ
- ・送迎マナーアップ立看板の作製と設置
- ・送迎スペース確保のためPTAによる年二回の除雪作業
- ・PTAによる週一回の送迎マナーアップ立哨（一月～三月）
- ・〈平成二十七年年度〉
- ・保護者への送迎ルールの周知と徹底
- ・市によるグラウンド南側駐車場の出入口の工事
- ・グラウンド南側駐車場に生徒待機所及び立看板をPTAで設置
- ・技術部の生徒から生徒待機所のベ

## ンチの寄贈

・PTAによる週一回の送迎マナーアップ立哨（一月～三月）

また、取組みの様子について「送迎対策委員会だより」を発行して、会員の共通理解を図った。並行して駐車場の舗装や防犯カメラの設置などについて、市に要望を提出した。そして、平成二十八年五月に市による駐車場の簡易舗装が実現した。

また、二十八年度は環境部が送迎マナーアップ立哨の活動を引き継いでいる。

## ② ネットモラル向上の取組み

新たなメディアの登場により私たちの生活が便利になる一方で、子どもたちに悪影響が出たり、時に犯罪の被害者になったりすることがある。近年急速に普及しているスマートフォン等の携帯型IT機器の影響はとりわけ心配される。

そこで、平成二十七年、ネットモラル向上委員会」を立ち上げ、生徒・保護者・学校が一体となってネットの上手な利用や利用する際のモラル向上について次のような取組みを行った。

- ・ネットモラル向上委員会の設置
- ・学校の協力を得て、生徒及び保護者を対象にネット利用に関するアンケートの実施
- ・アンケートの集約と分析
- ・生徒会役員・PTA役員・母親代

表・先生による意見交換会（ワークシヨップ）の実施

・「ネットモラル向上委員会だより」の発行

## ③ その他の活動

・生活部員が交通安全協会の広報車で「夕刻安全パトロール」を実施し、生徒下校時の安全を確保している。

・文教部がPTA広報紙「奥山野」を発行。親子の関係や家庭教育について考える契機となる保護者執筆のコラム「親の背中」など、工夫を凝らしている。

## 三、成果と今後の方向性

送迎について多数寄せられていた苦情などは皆無になっている。また、ネット利用についても親子で考える時間が徐々に増していると思われる。今後は市内各小中学校とも連携してネット関連の活動を充実させていく予定である。

これら課題の解決には会員同士だけでなく、地域や関係機関とのつながりによるところが大きい。今回の優良PTA文部科学大臣表彰に恥じぬよう、これからも若い会員にバトンをつなぎながら、よりよい学校、地域づくりにアクティブに活動していきたい。

### 一、はじめに

本校は、遊佐町の中心にあり、東北に鳥海山、西に庄内砂丘を臨み、東は出羽丘陵に囲まれた、自然豊かな地区にある。平成二十一年度には、創立一〇〇年を迎えた歴史と伝統のある学校である。学区民の教育に対する関心は強く、町づくり協議会、読み聞かせサークル「ピノキオの会」、見守り隊の登下校指導、地区子ども会育成等の活動も活発である。校舎が新築されて十五年ほどであるが、学校、PTA、地域が連携して、子どもたちの健全育成を図っている。平成二十五年度には、町立図書館、読み聞かせサークル、PTAが連携した読書活動が認められ、文部科学大臣表彰を受賞した。

現在は、十学級（特別支援学級二）二〇二名の在籍である。

### 二、特色ある取組み

本PTAの組織は、会長一名、副会長三名、会員一五〇名（保護者）の体制である。学年委員会と専門部

があり、専門部は、総務部、広報部、保健体育部、生活指導部、母親委員会の五つで組織される。

本PTAの特色ある活動をいくつか紹介したい。

#### 子どもと共に学ぶ

##### ○ファミリートーク

授業参観日を利用し、保護者が子どもたちに自分の職業について語る機会を設定した。いろいろな職業に携わる人の生の話を聞かせることで、子どもたちに将来の夢を持たせると共に、仕事に対する意識の向上に大きな役割を担っている。また、保護者の方も、一度では足りず、もっとわかるように伝えたいという意識が芽生え、さらに充実した活動が進められている。

##### ○親子読書・お月見読書会

子どもたちの心を育てるために、親子のふれ合いを進めているが、特に読書は心の成長に効果的である。そこで、学年の事業として親子読書の機会を設け、親子で共に読書に親しむことを進めてきた。さらに、秋

の夜長に本に親しめるよう、学校の図書館を開放してもらい、夜間、親子で読書に親しむ会も行っている。

また、お父さんたちもこの企画に賛同し、「おやじの読み聞かせ」も行う様になった。この成果か、昨年度も本年度も児童の平均読書冊数は二〇〇冊を超えるまでとなった。

##### ○親子料理教室

子どもたちの健全な体作りのため、食べ物に気をつけることは重要である。栄養教諭の指導の下、母親委員会が中心となって親子料理教室を進めている。ちよつとした工夫でおいしい料理ができるとあってお母さんたちはもちろん子どもたちにも人気がある。

#### 地域との連携

##### ○こいのぼり事業

本校の前にある月光川橋は、毎年山形県縦断駅伝のスタート地点になる。そこで、駅伝の選手の応援と子どもたちの健やかな成長、地域の発展を願い、地区の町づくり協議会と連携し、月光川にこいのぼりを掛ける活動を実施してきた。

##### ○エリアトークⅡ

PTA三役と校長、教頭が地域に出向き、地域の方々と一緒に児童の様子を語ることを通して子どもたちを地域と共に育てていく協働の仕組みを作り上げてきた。

### 三、成果と今後の方向性

本校のPTA活動は、子どもたちの健全な育成のために地域の方々と協力した様々な活動へと広がりを見せている。秋の運動会の反省会に一〇〇名を超える保護者が参加したり、PTA総会や各専門部等の会議では積極的な意見が出てきたりする等、何よりも保護者が協力し合って子どもたちを育てていこうという機運が高まっている。

成果としては、地域との連携が進まれ、子どもたちの健全育成の意識が高まっていることがあげられる。今後、少子化のため、入学児童の減少で会員数が激減して活動が制限されてくることが予想されるが、これからも、会員が一致協力して、子どもの成長を見守り育くみながら、地域と共に学んでいくPTCA活動を進めていきたい。

#### 優良PTA文部科学大臣表彰

## 学校・地域と連携し、 子どもと共に学ぶPTCA

遊佐町立遊佐小学校PTA会長 高橋直志



〈こいのぼり設置台の完成披露〉  
全校児童と地域のみなさん

この度、平成二十八年年度「日本PTA全国協議会会長表彰」の受賞にあたり、これまでの活動を支えてくださった諸先輩の方々、教職員・地域の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも、すべては子どもたちのために、充実したPTA活動に努力してまいる所存です。以下活動内容について紹介いたします。

## 一 はじめに

本学区は北側に秋葉山のなだらかな丘陵が広がり、東側に母なる川最上川が流れる風光明媚な農村地帯である。春になると若葉が青々と山を染め、夏には風祭りで活気にあふれ、秋にはリンゴや葡萄等の果樹がたわわに実り、冬には一面銀世界となる。またヤマガタダイカイギユウが発掘された河床や、国の名勝に指定されている大沼浮嶋稲荷神社など数々の遺跡もある。明治六年に大谷学校として創立され、現在児童数六十七名、保護者五十名の小規模校である。

## 二 特色ある取組みについて

① 「ほうき松に誓う」の共有  
ほうき松とは、根元から枝分かれし大空に向かって真っすぐに伸びる松である。朝日町の天然記念物に指定され、地区民のシンボルであった初木山のほうき松が枯れてしまい、二代目を学校に植えたことを記念し

て、「ほうき松のように素直で伸び伸びと成長する。」という誓いをPTAで制定した。平成十三年のことである。

以来、この誓いを実現するために、家庭・学校・地域でそれぞれ役割を分担・連携して児童の健全育成に取り組んできた。今も、活動の基盤にこの誓いを据え、活発な活動を展開している。

② 健全育成を目指した諸活動  
誓いに基づき健全育成のために、

のもと、校内でも地域でも挨拶が響き合い、多くの来校者に挨拶の良さを褒められている。生活リズムでは、「たっぷり眠り・しっかりと朝ごはん・ゲームのルール・朝うんち」をスローガンとして、取り組んでいる。特に、「さわやか週間」では、自己目標を保護者と共に立てて、目標達成のために家族が一致協力して取り組んでいる。生活リズムは学力とも大きな相関関係があると言われていて、子どもたちの将来のために、生

### 日本PTA全国協議会会長表彰

## 「ほうき松に誓う」を合言葉に

朝日町立大谷小学校父母と教師の会会長 遠藤 肇

三つの柱を立てて活動している。  
ア 挨拶と生活リズムを中心に基本的な生活習慣を形成

イ 笑顔と元気いっぱいの情報発信、家庭・地域との課題の共有  
(教育活動委員会)

ウ 親子のふれあい・多様な体験活動をもとに豊かな心を育成  
(広報活動委員会)

アでは、「あかるく、いつでも、さきに、つたわるように」の合言葉

活改善に力を入れるのは、我々保護者の責務であると考えている。

イでは、広報紙『おおや』を年三回発行し、全戸(約五百戸)に配布している。児童の教育活動や学校の方針が家庭・地域に伝わることで、開かれた学校づくりに大きく寄与している。昨年度最終号は卒業生特集として、児童・保護者全員から原稿を寄せてもらい充実した内容であった。また、今年度は通算百号を迎え、「おめでとう特集号」として発行し

た。卒業生四名の方から、思い出や故郷へのメッセージをいただき、大谷の素晴らしさ、夢をもつことの大切さなど感動あふれる内容であった。ウについては、母親委員会の読み聞かせ活動と、お手伝い週間が特徴的である。読み聞かせは、地域の方が月に一回程度来てくださるが、その合間に母親委員が実施している。身近な人の心のこもった読み聞かせを聞き、朝からあったかい気持ちで授業に臨んでいる。

お手伝い週間では、家庭での役割の自覚と親子のふれあいを図っている。休み明けには、母親委員が一人一人のカードにコメントを記入して、意欲付けを図っている。このような家庭教育への組織的・継続的な取り組みによって、かしこく、心豊かな子どもの育成が図られているのではないかと考えている。

## 三 成果と今後の方向性

学校と保護者・地域が連携して、共通の願いや課題を共有することとで、子どもたちの確かな成長を実感している。課題として、諸行事が集中する時期があり、無理がかからないよう、諸団体で十分協議し、諸行事の精選を図る必要性を感じている。

## 一 はじめに

本校は、山形県南部の川西町の東部に位置する田園の中に佇む、児童数二十五名の小さな学校である。

元々は、中郡村立中郡小学校的高山分校であったが、高山地区民の強い要望と運動により、昭和三十八年川西町立高山小学校となる。それだけに地区民が学校に寄せる思いは強く、地域の学校として、歴代PTA会長とともにPTAが全面的に支援している。

PTA会員は、甲会員（全保護者）と乙会員二十（高山地区民全戸、学校職員）百二十五名から成る。全保護者が役員となっているPTA活動においては、「家庭と学校、地域社会との結びつきを深めながら、ともに学び行動するPTA活動を展開しよう」をスローガンに、学校、家庭、地域が一体となった活動を展開している。

## 二 特色ある取り組みについて

### ① 全員参加のPTA

本PTAには、文化育成部と環境保体部の二つの専門部と学年部があり、全保護者がいずれかの専門部および学年部に所属し、それぞれの部会においては部員総意による活動が企画・立案・運営される。

### ○文化育成部

- ・PTA研修会の企画・運営
- ・PTA広報紙の発行
- ・アウトメディアの取り組み
- 環境保体部
- ・高山地区青葉大運動会の企画・運

### 営

・親子プール清掃および体育館ワックス塗りの実施

○一・二年部会    ○三・四年部会

・ピザ作り    ・ゲーム&芋煮会

○五・六年部会

・うどん作り

### ② 高山地区青葉大運動会

PTA主催で、地区と学校が一緒になった高山地区青葉大運動会を開催している。主としてPTA四役と環境保体部が企画・立案し、PTA役員全員で前日の準備、当日の運営

## 日本PTA全国協議会会長表彰

## 学校・地域をつなぐPTA

川西町立高山小学校PTA会長 浦田 智 春

住民、教職員が加わっての約四十名の構成で、地域ふれあいデーや中郡秋祭り、町の音楽イベント「音楽見本市」で三曲の演奏を披露している。

PTAとしての教育活動へのバックアップ体制は、長年受け継がれてきた高山小学校PTAの伝統である。

### ④ 研修会の開催

◇平成二十六年 度 ノーメディアの講演会  
演題「メディア接触による子どもたちへの弊害」  
講師 田澤 雄作氏

子どもたちへの弊害」

◇平成二十六年 度 音楽に親しむ研修会  
修会「親子で楽器に親しもう」

◇平成二十七年 度 ノーメディアに向けた研修会  
演題「親子で楽しくサイエンス」  
講師 船山 義弘氏

◇平成二十八年 度 子育て講演会  
演題「いのち・まなび・つながり」  
講師 鈴木 一作氏

親として子育てを通してさらに学びが実感できる、そんな研修会を企画している。

### ⑤ リサイクル活動と義援金

親と子で地域全戸を回って古紙を回収し、資源回収活動を進めている。

その収益金は、主に全校合奏の楽器の購入・整備代金、および東日本大震災や熊本地震の義援金に拠出している。

⑥ 学校ボランティアと地域ふれあいデー

畑の先生や田んぼの先生など、スクールボランティアの方々に教室や学校にお出でいただきご支援やご指導をいただき、今では地域の方が気軽に足を運び、ボランティアいただける学校となった。その感謝と成果の発表の場として、地域の方々といっしょに活動する「地域ふれあいデー」を実施し、児童・保護者・学校・地域が協同体として学校運営を進めることの意義と成果を実感していききたい。

## 3 成果と今後に向けて

本校PTAは、これらの活動を通して高山小学校学校運営協議会および学校支援地域本部と協力しながら、多様な専門性や、年代・職域を生かした地域住民が、学校づくりに参加する取り組みを進めている。これによって子どもたちの成長を支え合う地域づくりの一翼を担うと共に、学校が、PTA会員である保護者や地域住民が活躍できる生きがいづくりの場ともなっている。

これからも、学校、地域と連携しながら子どもたちの健全育成、学校づくり、地域づくりにつなげるPTA活動を進めていきたい。

## 第48回日本PTA東北ブロック研究大会弘前大会に参加して



山形県PTA連合会  
副会長

上 嶋 竜 一

九月十日・十一日の二日間にわたり、「伸びゆく心 未来を拓くたくましい子ども」とともに考え、ともに育もうと活かそう大人の知恵と体験を、育てよう子どもと心と体」の大会主題のもと、第四十八回日本PTA東北ブロック研究大会弘前大会が開催されました。一日目は弘前市内の六会場に分かれ分科会が開催されました。私が参加した第四分科会は「家庭と小学校教育」今を豊かに、力強く生きる子どもの育成」をテーマに、子どもたちの自己肯定感を高める取り組みについて、弘前大学教育学部特任助教授の齋藤厚氏よりご講演頂きました。

基調講演後は三名のパネリストが登壇し、新関氏（山形県PTA連合会顧問）は先進的な取り組みである山形方式ネットモデルカリキュラムについての発表と一〇〇〇人メールの提言、富岡氏（青森県八戸市立江南小学校PTA会長）は地域社会と連携した活動や、スポーツを通じた人間力育成の事例発表、角田氏（宮城県PTA連合会副会長）は自身が現役校長としての立場から、学校は学習リズム・生活リズム・心を整える場、教育の原点は家庭であり、子どものやる気・意欲を高めるには、まずは家庭での規則正しい食事と睡眠が重要と力強く訴え、角田氏が導入し、効果をあげている給食後の午睡タイム（昼寝）に関しては、会場から多くの質問があり、その他にも質問や意見が活発に飛び交う分科会となりました。

二日目は開会式典に続き、元自転車プロロードレーサー宮澤崇史氏による記念講演が行われました。二十才という選手として絶頂の時に、母親への生体肝移植を自ら願い出て、術後は成績不振によりチームを解雇されるといふ人生最大の逆境に立たされた中でも、自分を信じ、他の選手への何十倍もの努力を積み重ね、数々のタイトルを掴み取るまでに至ったエピソードが話され、会場は大きな感動で包まれていました。

将来に夢と希望を感じ、未来をたくましく切り拓く子どもたちを育成するために、この研究大会で学んだこと、得た成果を多くのPTA会員の皆様と共有し、今後の活動に活かして参ります。

## 第64回日本PTA全国研究大会徳島うずしお大会に参加して



山形県PTA連合会  
副会長

田 中 正 浩

全国から五〇〇〇名ものPTA関係者が徳島県に集い、八月二十日・二十一日に開催された第六十四回日本PTA全国研究大会徳島うずしお大会に、前日の移動日を含め二泊三日の日程で山形県内の二十四名の会員とともに参加しました。

全国の先進事例に学ぶとともに、PTA会長等の責任ある役割を担っている皆様と活動実践について語り合う機会をいただいたことに感謝申し上げます。

徳島の三日間での一番の学びは、組織運営と広報活動をテーマとした第一分科会に参加し、これからのPTA活動のあり方について納得できる答えを得たことです。折しも役員選考や活動内容などPTAを取り巻く課題について全国紙でも

特集される中で大会開催でした。パネルディスカッションでは、全国のPTA会員の悩みや不安を正面から受け止め、各単位PTAの安定した運営のための解決策となる具体的な実践事例がわかりやすく示されました。「PTAの組織と活動を会員に理解してもらった上で、積極的に取り組んでもらうためには、子どもたちや会員の思いを丁寧に汲み上げる広報活動が必要である。」という討議からは、今後も活動を継続していくための道筋が示されたと受け止めることができました。

また、大会運営についても学ぶべきところがありました。華やかな阿波踊りや子どもたちが担ってきた伝統芸能といった地域文化の発信も魅力的な演出でしたが、何より素晴らしいのは、地元会員の皆様が元氣なあいさつとさわやかな笑顔で出迎えてくれたことです。そして、大会冊子からは充実した講師陣をそろえて七つの分科会と全体会を盛大に開催するために、長期間にわたり丁寧に活動に取り組まれてきたこともよくわかりました。

自分たちが必要とする学びの場を自分たちで創り上げるPTA活動の実践。目指すべきあり方を具体的に見せてもらった徳島の夏でした。

# 栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTA活動にご尽力され、多大のご功績をあげられ団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。全国小中学校PTA広報紙コンクールにおいても上位入賞しました。おめでとうございます。(敬称略)

## 平成28年度優良PTA文部科学大臣表彰

東根市立第一中学校PTA

遊佐町立遊佐小学校PTA

## 平成28年度日本PTA全国協議会会長表彰

### 団体

朝日町立大谷小学校父母と教師の会

川西町立高山小学校PTA

### 個人

近野 信広 前県PTA連副会長 山形第十中

佐藤 靖広 前県PTA連副会長 米沢西部小

五十嵐重一 前県PTA連副会長 櫛引東小

設楽 伸治 前県PTA連副会長 楯岡中

## 平成28年度東北PTA連絡協議会会長表彰

### 団体

新庄市立萩野学園PTA

東根市立神町小学校PTA

### 個人(表彰状) 前県PTA連理事・監事

岩川 耕治(上市市PTA 北中)

笹原 修(天童東村山PTA 天童第三中)

奥山 一喜(西村山PTA 河北中)

戸田 義和(東置賜PTA 中郡小)

渡邊 重信(西置賜PTA 小国中)

柴田 博人(東田川PTA 三川中)

吉村 克美(酒田飽海PTA 浜田小)

丸山さつき(米沢市PTA 南原小)

高梨 真英(西村山PTA 河北中)

江口 俊和(山形市PTA 金井小)

## 平成28年度優良PTA山形県教育委員会表彰

東根市立第一中学校PTA

東根市立神町小学校PTA

寒河江市立柴橋小学校PTA

朝日町立大谷小学校父母と教師の会

新庄市立萩野学園PTA

金山町立金山小学校父母と教師の会

米沢市立第二中学校教育会

川西町立高山小学校PTA

遊佐町立遊佐小学校PTA

酒田市立南平田小学校PTA

山形県立酒田光陵高等学校PTA

山形市立商業高等学校PTA

## 平成28年度山形県PTA連合会会長表彰

### 感謝状(平成27年度県PTA連役員退任者)

近野 信広(山形市PTA 第十中)

設楽 伸治(北村山PTA 楯岡中)

五十嵐重一(鶴岡市PTA 櫛引東小)

佐藤 靖広(米沢市PTA 西部小)

岩川 耕治(上市市PTA 北中)

笹原 修(天童東村山PTA 天童第三中)

奥山 一喜(西村山PTA 河北中)

戸田 義和(東置賜PTA 中郡小)

渡邊 重信(西置賜PTA 小国中)

柴田 博人(東田川PTA 三川中)

吉村 克美(酒田飽海PTA 浜田小)

辻 雅人(米沢市PTA 南部小)

鹿野 智(山形市PTA 第四中)

丸山さつき(米沢市PTA 南原小)

高梨 真英(西村山PTA 河北中)

江口 俊和(山形市PTA 金井小)

### 表彰状(郡・市PTA連合会より推薦)

緒方 晴英(山形市PTA)

三沢 大介(山形市PTA)

笹 浩一(山形市PTA)

松田 光幹(天童東村山PTA)

森谷 俊朗(天童東村山PTA)

飛塚 武(天童東村山PTA)

近衛 智之(西村山PTA)

斎藤 利彦(北村山PTA)

若槻 寛(最上地区PTA)

阿部 浩樹(最上地区PTA)

山田 美里(最上地区PTA)

村岡 一法(鶴岡市PTA)

松本 国博(酒田飽海PTA)

齋藤 伸行(酒田飽海PTA)

白畑 弘美(酒田飽海PTA)

## 平成28年度 第38回全国小中学校広報紙コンクール

### 文部科学大臣賞

最上町立大堀小学校PTA

### 佳作

酒田市立松原小学校PTA

### 日本PTA奨励賞

酒田市立十坂小学校PTA

酒田市立亀ヶ崎小学校PTA

鶴岡市立京田小学校PTA

東根市立東根小学校PTA

河北町立河北中学校PTA

鶴岡市立鶴岡第一中学校PTA

鶴岡市立鶴岡第四中学校PTA

東根市立第一中学校PTA

### 山形県PTA会長賞

鶴岡市立朝暘第三小学校PTA

鶴岡市立栄小学校PTA

鶴岡市立櫛引東小学校PTA

真室川町立真室川小学校PTA

酒田市立松山小学校PTA

山形市立蔵王第一中学校PTA

山形市立第十中学校PTA

## 平成27年度 日本PTA国内研修に参加して

### 「悲しい歴史と

#### すばらしい出会い」

米沢市立第一中学校

宮 島 奈菜海

私はPTAの国内研修事業に参加して、様々なお話をお聞きし、たくさんの方と会って体験してきました。

印象に残っていることの一つ目は、渡嘉敷島の文化や自然についてです。エイサーという太鼓と三線を使った舞踊は、実際に練習をさせていただきました。とても難しかったし、太鼓も左手だけで支え、右手で拍子をもつてたいたり、振り回したりして、左手の小指が痛くなりました。また、海にいるアオウミガメが減少していて、それは、シャンプーなどの人間の生活が関係しているということも聞きました。使う洗剤の量を少なくし、もっと環境のことを考えていこうと思いました。渡嘉敷島の方々が文化と自然もしっかり受け継ぎ、守っているということ、すばらしいことだと思いました。

二つ目は、日本で唯一の陸上戦であった沖縄戦についてです。一九三五年三月二十日、渡嘉敷島に初めて米軍が上陸し沖縄戦が始まったとき、島の人々は手榴弾をもって逃げたそうです。当時、島の人々は「鬼畜米英」という考えを教えられていたため、追い詰められた人々は米軍に捕まるくらいならと次々と自決していったそうです。特に印象に残っているのは、家族七人のうち自分以外を殺してしまった医者のお話でした。私はこの話を聞いて、自分で家族を殺してしまうことほど悲しくてつらいものはないだろうなと思いました。また、沖縄戦での死傷者の数は軍人よりも一般人の数の方が多かったということにも驚きましたし、同時になぜ一般人の方が多いたろうという疑問も浮かびました。これに関して、私は軍人が我先に逃げたとか、もしくは軍人の数がもともと少なくて一般人の避難が間に合わなかったかのどちらかではないかと推測しました。時間がなくて質問したり確認したりできなかったのがとても残念でした。

沖縄戦という悲しいことが日本でも起こったのだと思うと今のこの時間ごとにも大切なものに思えます。私たちが、今、この時代に生きているのはとてもすごい奇跡なのだと思

めて思いました。沖縄戦では生きてくても生きられなかった人がたくさんいたことを知り、私たちは、もつと時間を大切に、有効に使うべきだと思いました。できれば、私は将来人の命を助ける仕事につきたいなと思いました。

私は、PTAの国内研修事業に参加する前は、他の人たちと仲良くなれるか心配でしたが、五日間一緒に様々な体験をして、とても楽しかったです。また、出会いというものの大切さを改めて実感しました。そして、これから出会う人とも良い関係を築く自信にもなりました。渡嘉敷島で、学び、感じ、体験してきたことを活かし、今後自分の夢のために努力していきます。

### 「仲間」

米沢市立第七中学校

安部 智輝

三月二十六日から三十日まで沖縄の渡嘉敷島に研修に行ってきました。この研修を一言で表すならば、「井の中の蛙大海を知らず」です。

一日目、まず仙台空港に東北の人たちが集まりました。大阪空港に着くころにはほぼ打ち解けていました。その日の夕食で初めて見たグルワン唐揚げに驚きました。その後の懇談

では今の渡嘉敷島の状況などを聞きました。新垣新汰郎さんには三線を引いていただきました。僕は初めて三線を見たので奇怪な音色に驚きました。

二日目は、初めに平和学習をしました。地元の人のお話で戦争の悲惨さがわかりました。昼食は、野外炊飯でカレーを作りました。八班の人と会話をする機会が増え、より仲良くなりました。その後のワークシヨップでは、エイサーをしました。小学校の時に少ししていましたが、もつと本格的でかつよかったです。大交流会では沖縄のいろいろな芸能を見ることができてよかったです。

三日目の午前中は、村内散策をしました。石敢當やシーサーが村にたくさんありました。

午後は海洋研修をしました。あまり海に行く機会がないので、少し新鮮でした。シュノーケリングを教えていただき、間近にあるさんごや魚を見るのができました。一番驚いたのは、海が透き通っていて下まで見えることです。その後、キャンドルサービス出し物大会では、八班はシェアハピダンスをしました。様々な地方の方言を聞くことができ、日本という一つの国なのに地方ごとに様々な言葉があつておもしろいと思いました。四日目は、渡嘉敷最後の

日なので村の方に渡嘉敷島に来て感じたことなどを発表しました。今、渡嘉敷島の人が少ないので渡嘉敷島を離れるのがさみしかったです。五日目でこの沖縄が最後でした。さよならタイムでは、自分のTシャツに班のみんなやリーダーたちのコメントを書いてもらいました。別れるときはほとんどの人が泣いていました。もうこの一二〇人が集まることはないと思います。またいつか八班の人だけでもどこかで会おうと約束し、別れました。今にでも会いたいくらいです。

今振り返ってみると驚きがたくさんありました。沖縄料理のおいしさに驚き、海のきれいに驚き、渡嘉敷島の人のテンションの高さに驚き、もう驚きの連続でした。初めて食べる沖縄そばや人参シリシリ、他の県の人と友達になったり、生で三線を見たりフィンをつけて泳いだりと初めてのことでびっくりしました。最後にPTAや渡嘉敷島のみなさん、班のリーダー、渡嘉敷島に集まった一二〇人の仲間たち、すべての出会いに感謝したいと思います。「ありがたい」この体験は人生でとても貴重な時間だったと思います。この仲間たちは僕の宝物です。一生忘れません。

## 合同復興支援活動参加児童生徒感想

「被災地に残る爪あと」

柳引東小

渡部 穂香

東日本大震災が起きたとき、とても大きなゆれが続いて怖かったことを覚えています。でも、今回見学した地域の人たちは津波の被害もありもつと怖かったと思います。一番最初に見学した大川小あ

とでは、丈夫そうな鉄筋コンクリートの柱が倒れていました。少しの水では力が強くないのにたくさん水と倒れた

木で力が増し柱を倒したと聞きました。近くの鉄の橋も流

された聞き、津波はともて恐ろしいものだと感じました。

柴田さんたちのように仕事を再開している人もいます。再

ますが、今でもたくさんの方不明の方もいて、心の傷はまだ治っていないと思います。

いつ起きるか分からない災害に備えこの出来事を忘れない

ようにしたいです。とても貴重な話を聞くことができてよかったです。



「復興支援活動に参加して」

八向中

安喰 陽 崇

今回の活動で日常の生活では経験できないことをたくさん学ばせていただきました。保存決定された翌日に訪れた大川小学校。その存在は知っていましたが、海からかなり離れているにもかかわらず、しかも、川からの波だけでこれだけの被害が出るとは全く想像ができませんでした。でも、たくさん犠牲者が出たのは確かなので、僕は、大川小の地に立つてとても悲しく辛い思いで見

ていましたが、これからの世代に津波の恐ろしさを語り継ぐ大切なものになるだろうと思いました。僕には、南三陸に知り合いがいます。その方

も志津川で被災し仮設で暮らしている、大変な思いをしていますが、わざわざ会いに来てくれました。常に笑顔

を見せてくれます。その方だけではありません。市場の人たちや雄勝の人たち、浜のおばちゃんも笑顔で

た。やっぱり心も体も復興に向かってるんだなあと感じました。自分ができること

とは何だろう、人を助けることはどうできるだろうと今回の活動を

生かしていきたいと強く思いました。



## 山形県PTA連合会安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。関係各位・保護者の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

安全互助会ってなあに？ \* 児童・生徒の学校管理下外やPTA行事中での傷害事故・賠償事故を補償しています。  
\* A・B・C・特A・特B・特Cの6コースがあります。

※近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1000万円の**特3コース**を！  
安全互助会加入校のうち46%の学校PTAが移行されています。万が一の事故に備え、是非ご検討下さい。

※子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

傷害事故1030件のうち94件が自転車に係る受傷です。ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

※事故の未然防止が一番大切です。

- ・スポ少活動中の事故が299件で最多となっています。指導者や保護者のご協力をお願いいたします。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。

| 加入297校の内訳 |     |    |     |
|-----------|-----|----|-----|
| A         | 151 | 特A | 122 |
| B         | 10  | 特B | 10  |
| C         | 1   | 特C | 3   |

| 傷害事故支払状況 (単位：千円) |       |        |       |
|------------------|-------|--------|-------|
|                  | 件数    | 児童・生徒  | PTA傷害 |
| 平成25年度           | 1,426 | 14,638 | 76    |
| 平成26年度           | 1,371 | 12,792 | 77    |
| 平成27年度           | 1,245 | 12,161 | 63    |
| 平成28年度(1月末)      | 1,030 | 10,031 | 46    |

| 賠償事故支払状況 (単位：千円) |    |       |  |
|------------------|----|-------|--|
|                  | 件数 | 金額    |  |
| 平成25年度           | 87 | 6,254 |  |
| 平成26年度           | 42 | 2,642 |  |
| 平成27年度           | 77 | 5,156 |  |
| 平成28年度(1月末)      | 62 | 2,970 |  |

# 第69回山形県PTA研修大会新庄・最上大会のご案内

山形県PTA連合会副会長 上 嶋 竜 一



来年度の山形県PTA研修大会を、平成二十九年十月二十一日に、新庄市民文化会館を主会場に、最上地区PTA協議会及び新庄市PTA連絡協議会が主管となり開催いたします。

大会主題を「ふれあい 学び合い いのち輝く子どもの育成」といたしました。目まぐるしく変化する社会の中で、子どもたちが夢を抱き、その実現に向けてたくましく生きていく力を育むために、私たちPTAの役割はますます大きくなってまいります。しかしながら多くの単位PTAが、少子化による会員数減少、活動への参加意識低下など、PTAの存続を揺るがしかねない大きな問題に直面しています。またその他にも問題・課題が山積し、頭を悩ませ、対応に苦慮している現実があります。この研修大会を通して、県内の各地区から集まった会員がそれぞれの抱える問題・課題を共有し、その解決に向けて、互いに考え学び合う機会にしたいと思っております。

内容として午前・午後の分科会では、①活動が活性化するPTA組織と運営②情報メ

ディアに積極対応するPTA活動③地域と子どものつながりを深めるPTA活動④子どもの生活習慣を確立するPTA活動⑤子どものいのちを守るPTA活動、以上5つのテーマが設定されております。各テーマをもとに、パネリストの皆様が各PTAで取り組んでいること、また工夫していることなど事例を交え発表頂き、その後、参加者の皆様からもご意見やご提言を頂きながら学びを深めて参ります。

午後からは、「いろいろな子育てのかたち」をテーマに、日本では出産育児のために、母親が社会で活躍する場と機会が少なくなる現状の中で、仕事と家庭どちらかを犠牲にすることなく両立させ、さらにPTA活動にも参加してきた経験を持つ、資生堂執行役員顧問・秋田大学理事の関根近子氏をお招きし、基調講演とパネルディスカッションを予定しております。

今後のPTA活動につながる有意義な研修大会となりますよう、最上地区の八市町村PTAが一体となって準備を進めてまいります。多くの皆様にご参加賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 平成28年度 山形県PTA連合会役員名簿

|     |       |                |       |      |       |             |       |
|-----|-------|----------------|-------|------|-------|-------------|-------|
| 会 長 | 荒井 寛  | 山形市PTA連合会      | 蔵王第一中 | 理 事  | 戸屋 英治 | 酒田飽海PTA連合会  | 酒田第二中 |
| 副会長 | 田中 正浩 | 山形市PTA連合会      | 桜 田 小 | 理 事  | 本田 淳  | 県小学校長会代表    | 朝陽第一小 |
| 副会長 | 阿部 哲也 | 上山市PTA連合協議会    | 南 小   | 理 事  | 渡邊 裕美 | 県中学校長会代表    | 山大附属中 |
| 副会長 | 上嶋 竜一 | 最上地区PTA協議会     | 新 庄 小 | 理 事  | 堀田 理恵 | 県P母親委員長     | 蔵王第一中 |
| 副会長 | 五十嵐 崇 | 鶴岡市PTA連合会      | 朝陽第四小 | 理 事  | 高橋 智文 | 県P副母親委員長    | 天童南部小 |
| 理 事 | 結城誠一郎 | 天童・東村山地区PTA連合会 | 天童第四中 | 監 事  | 尾形 吉則 | 山形市PTA連合会   | 滝 山 小 |
| 理 事 | 松田 一成 | 西村山PTA連合会      | 陵 南 中 | 監 事  | 阿部 勉  | 山形市PTA連合会   | 楯 山 小 |
| 理 事 | 高橋 史直 | 北村山PTA連合会      | 楯 岡 中 | 監 事  | 村上 和彦 | 上山市PTA連合協議会 | 南 小   |
| 理 事 | 嵐田佳津真 | 米沢市PTA連合会      | 第 五 中 | 事務局長 | 村山 良光 |             |       |
| 理 事 | 西方 茂太 | 東置賜地区PTA連合会    | 和 田 小 | 事務局員 | 佐藤 静子 |             |       |
| 理 事 | 青木 徹  | 西置賜地区PTA連絡協議会  | 西 根 小 | 事務局員 | 熊谷 慶子 |             |       |
| 理 事 | 長永 一男 | 東田川郡PTA連合会     | 立 川 中 |      |       |             |       |

## 御礼とお知らせ

平成二十八年四月十四日熊本県を震源とする大地震が発生し、多くの人々が被害にあわれました。この大震災に伴って日本PTA全国協議会では、義援金の協力を全国のPTA連合会に呼び掛けました。山形県PTA連合会も県内のPTAに協力をお願いしましたところ多くの方々に賛同とご協力をいただき、全国のPTA連合会と一緒に熊本県PTA連合会に送金することができました。

ご協力に感謝申し上げます。

さて、平成二十七年まで協力をお願いしてきました書き損じハガキの募集が完了しましたが、二十八年三月をもって終了しました。これまでのご協力に感謝申し上げます。また、二月十日に開催された最終理事会において、平成二十九年度の活動について、「親学」の計画的推進と親子読書活動の一層の充実推進が確認されました。このことについて別途史料が送付されておりますので、積極的・計画的な取組をお願い申し上げます。

